

第2回札幌恵庭自転車道線恵庭工区延伸ルート 検討委員会

ニュースレター No.2

2010 年 6 月 17 日発行

発行 / 恵庭市

「第2回札幌恵庭自転車道線 恵庭工区延伸ルート検討委員会」が開催されました

「札幌恵庭自転車道線 恵庭工区延伸ルート検討委員会」の第2回検討委員会を、去る5月27日(木)13時30分から恵庭市役所にて開催し、委員10名と本委員会のアドバイザーとして、北海道大学工学研究院の岸邦宏准教授が出席しました。

初めに現地視察を行いました。視察後は岸先生から「道道札幌恵庭自転車道線のルート検討について」と題してお話があり、その後、2グループに分かれて、整備方針やルートについて意見交換を行い、最後に各グループから発表を行いました。

□現地視察

自転車ルートの起終点となる恵庭駅から道道恵庭線島松川橋梁付近間における、概況の把握と情報の共有化を図る為、現地視察を行いました。「島松川橋梁付近」と「道と川の駅 花ロードえにわ」ではバスから下車し、地域の特性を確認しました。



□北大 岸先生のお話

岸先生からは、平成19年度に実施した道道札幌恵庭自転車道線に関する意識調査から明らかになった点、恵庭工区ルートを議論する上でのポイントについてお話がありました。

○調査から明らかになった点

- ・提示した3案のルートではルートBを希望する人が多い
- ・評価要因では安全性を重視

○恵庭工区の議論のポイント

- ・自転車道をどのように利用するか？
- ・市外から来る人達にどこを見て欲しいか
- ・想定されるルートの利点・欠点の整理



□グループによる意見交換

2つのグループに分かれて「ルートの方向性」と「ルート」をテーマに意見交換を行いました。

	Aグループ	Bグループ
方向性	・市民が自転車に乗る機会・きっかけとなる道づくりを。 ・自転車道で人の流れを呼び込むことで、沿道の店舗立地や更新も期待される。 ・利便性を考えると、“まちのなかでのルート”が望ましい。	・快適性のあるサイクリングロード。 ・景観の良い道づくり。 ・車を気にしないで走れる安心できる道づくり。 ・安全に配慮した道づくり。 ・自転車と人は共存する事も大事。
ルート	「住宅地内ルート」の“作り方” ・島松・恵み野・恵庭の3つの地域を連結する「幹線(札幌恵庭自転車道線)」と、地域内の「枝線」で、市内のネットワークを構築する。 ・恵み野の住宅地の中を細かく通すことも考えられ、学校・図書館などの立地を考慮し、どのように通すかが検討のポイントとなる。 ・ポケットパーク、休憩所・トイレ等の配置も必要であり、花とみどりが感じられ、市民の憩いやコミュニケーションの場となるようにすべき。ネットワークを構築してはどうか。 まちなかを通るルート レクリエーションのルート	・盤尻地区に繋がるルートが良い。 ・将来の事を考えてルートを設定した方が良い。 ・信号の影響を受けず、段差のないストレートな道路が理想。 ・周辺の主要な道路へのアクセスが便利なルートが良い。 ・歩車分離をした方が良い。

次の第3回委員会は、7月上旬開催を予定しています。

「札幌恵庭自転車道線恵庭工区延伸ルート検討委員会」に関するお問い合わせは

【委員会事務局】恵庭市 企画振興部都市計画課

| 〒061-1498 恵庭市京町1番地

| 0123-33-3131

【委員会アドバイザー】北海道札幌建設管理部 千歳出張所 道路係

| 〒066-0067 千歳市桂木6丁目1-28

| 0123-23-4191